

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100148		
法人名	株式会社 優華		
事業所名	優華 グループホーム 戸次の里		
所在地	大分県大分市中戸次4287番地		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100148-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成26年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街で小学校の近くに位置し、チャイムの音や子供の声がよく聞こえ、グラウンドで活動する子どもの姿もよく見える。平屋建てで天井が高く、天窗があり陽の光がよく入る。家庭的であることを基本理念とし、個々の生活歴やペースに合わせたケアを心がけている。施設特有の「臭い」に敏感になり、快適な空間作りに努めている。月1回の勉強会も継続して行い、知識・技術の向上とともに、まずは入居者のみなさんが「自分の親だったら・・・自分だったら・・・」と考え「自分の親、いずれは自分も利用したい施設」を目指している。開所して7年半、医療と連携し22名の方をみとらせて頂いた。戸次の里で最期まで過して頂けることに感謝し、最期の時間をご家族と一喜一憂し、その中で、職員ひとりひとりが色々なこと感じ、学ばせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「地域交流、みとりの介護、ゆとりある家庭的な生活支援」の実現に向け、地域との交流を積極的に行い、地域、利用者、家族、職員が相互に理解し、信頼関係を構築し地域行事の参加等、利用者、個人の能力を最大限に引き出す介護を目標としています。ホールや居室に利用者の一日を綴った「想い出ノート」を置き、面会時の楽しみになっており、職員とのコミュニケーション(話題)の一つになっています。又、アンケートにも感謝の言葉と家庭的な介護、手作りの食事に家族の安心と信頼が見受けられました。利用者の特性や身体機能の維持、活用を生かし、その人に合った役割を増やし、生活の質の向上を図る取り組みに力を入れており、その一つに手作りのレクリエーションがあり、個別支援を工夫する所に表れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に唱和している。新入社員へのオリエンテーションで、理念の内容について説明、共感を得て法人の一員として就業できるようにしている。	理念は事務室、玄関のわかりやすい所に掲示しています。職員は常に理念を頭に入れて日々のケアに関わっています。「自分の親だったら～」と思い、利用者の立場に立って、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるよう支援をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の春祭りにお神輿が来てくださったたり、小学校の運動会見学に行った。当ホームの夏祭り等の行事を回覧板やポスター掲示で、地域の方へお知らせしている。近くのコンビニエンスストアへの買い物で、店員さんとも顔見知りになった。	事業所で行われた夏祭りや地域行事では、お互いの協力を通し、地域交流の重要性を改めて実感し、今後更に地域貢献も含め、相互関係を深めていく取り組みを全職員で話し合っています。	運営推進会議で情報を得ることで、地域のニーズを把握し、地域の行事(美化活動等)にも積極的に参加することで、外部との相互交流を更に進められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初任者研修、高校生の実習・職場体験の受け入れをし、認知症の症状や接し方について、学んでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、老人クラブ会長、自治会長、家族代表等に参加していただき、報告事項の後、和やかな雰囲気の中で助言、意見交換して頂き、サービスに活かしている。	年に何回か、行事と一緒に運営推進会議を開催することで、実際のサービスを見て頂いています。事業所の実情や現状報告、災害対策について、活発な意見交換が行われており、運営の反映に活かしています。	委員との関係作りのために、行事とあわせて開催することで、事業所の取り組みを公開し、活発な意見交換が行われています。今後、更に発展する上で、地域との関わりの多い職員が交替で参加することで、職員の意識向上に繋がることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居の受け入れ時や、介護保険・運営等についての疑問点があれば、電話にて相談し、アドバイスをいただいている。できるだけ書類の提出時は出向くようにしている。	市の担当者とは、運営推進会議への出席を頂く中で、情報共有や意見交換を通じて、顔の見える関係性の中で協力関係を築けるよう取り組んでいます。又、課題解決に向けた対応等の相談や助言を頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	おひとり、玄関から出かけようとする方もいらっしゃるが、まず、行動の目的を理解しようとする。納得されるまで、行動を共にする。	身体拘束にあたる事例(玄関の施錠等)は見られません。職員は研修で身体拘束の内容と弊害を認識し「自分の親だったら～」を胸に、拘束のないケアに取り組んでいます。訪問時一人で散歩に出かけた利用者がいましたが隣接施設職員が優しく声掛けし、同行するのが確認出来ました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加し、その後伝達講習を行い、改めて虐待の種類について、学んだ。やはり「自分の親だったら・・・」という意見から、活発な話し合いができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まず、管理者がどのような制度があるのかを知り、提案、相談窓口を紹介できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書については、1項目ずつ説明を行い、いったん持ち帰っていただき同意を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。雑談・日常会話きっかけに家族との人間関係の構築に努め、来所時には、管理者だけでなく職員も家族と積極的に話をしている。頂いた意見は会議等を利用して、サービスに反映できるようにしている。	家族から出された率直な意見等を前向きに活かすことで、サービスの質の確保、向上に繋げています。思いを表出できない家族の心情を察し、言い易い雰囲気作りに配慮をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決算時期に、職員にわかりやすくグラフなどで運営状況を説明している。また、何事もトップダウンではなく、職員からの意見を幹部会議で話し合う形式が多い。	定期的に行われる会議、年2回の個別面談で、職員の意見、要望を聞くとともに、管理者は日々のケアに入り、職員とのコミュニケーションを図っています。経営者は、有給休暇を勤務表に組み込む等就業環境に力を入れ、職員のモチベーションに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に個人目標をたて、評価・反省後、個人面談を行っている。個々の良いところを伸ばし、不得意分野を克服できるように助言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年ごとの自己評価、面談、経験年数により、個々の力量を把握できるように努めている。能力、性格に合わせた助言を行い、研修受講や資格取得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム連絡会をつうじて、他施設職員との情報交換を行い、行事やケア方法などサービスの向上につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込後と入居日決定後には必ず、ご本人にお会いできるようにしている。事前見学は、できるだけ日時をご本人、ご家族に合わせて来所しやすい環境作りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と、たくさん話をする。日常会話や雑談ができるようになれば、ご家族は要望や苦情を言ってくたさらない、と思っ信頼関係を築けるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅からの入所の場合、ご家族はそのタイミングをととも悩まれる。ご本人の状況やご家族の介護力や負担を伺いながら、サービスの種類や利用方法を説明している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は勤務ではあるが、「入居者と一緒に生活をする、一緒に時間を過ごす」と感じている。個々の生活暦や喜び、生きがいについて知ることを努力し、家事など一緒に行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の「心の支え」については、職員がどんなに頑張ってもご家族にはかなわないことを、日頃より伝えている。職員がご家族に、好みのものを教えてもらったり相談することもある。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活暦を知り、入居後もご家族からの情報をいただきながら、その場所に出かけたり、ご家族との外出支援を行っている。	入居時に面談し、これまでの生活歴を聞き取り、交流関係や馴染みの場所等を把握しています。家族の協力を得て帰宅したり、知人や親類の訪問を歓迎し、馴染みの時間が過ごせるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活の様子から入居者同士の人間関係を把握、職員が情報を共有している。関係が良好な方は一緒にお風呂に入ったり、関係が良くなければ、双方の距離に配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	5年前に退居して、自宅にて独居生活をされている方と連絡を取り合っている。みとり退居された方のご家族とは、今も交流があり、行事にも参加して下さる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からご本人の希望、意向を汲み取れるようにしている。常に、職員の都合・業務の都合になっていないか、ご本人の意向はどうかを職員同士で話しあっている。	日頃の関わりの中から、思いや意向の把握に努めていますが、意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得たり、日頃のサインを見逃さないよう、きめ細かいケアを心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人・ご家族・事業所から生活歴等、何うが、入居後もご本人との会話の中から子どもの頃や働いていた頃の話を知ることができている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、日頃の様子をしっかりと観察する力をつけ「いつもと違う」に気付く事ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向をもとに、職員だけに凝り固まらず、ご本人に関わる方々からの意見を頂き、毎月のユニット会議だけでなく、毎日の申し送りの時間を利用して、できるだけ早く対応できる介護計画を作成している。	家族から情報を得て、担当職員の詳細な記録や医療関係者の意見を取り入れて、介護計画を作成しています。又、毎日の申し送り時に変化がないか確認し、臨機応変に見直すよう対応し、変更があれば、その箇所に付箋を貼り職員間の情報の共有に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、食事摂取量、服薬確認、バイタルを1枚の用紙に記録し、誰がいつ見てもわかるようにしている。毎日の様子や、ケア内容を録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や訪問看護等、どのようなサービスがあり、どのような利用方法があるのかを、ご家族に説明できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する住民の方々が、野菜や果物を持ってきて下さったり、畑から入居者に声をかけて下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医について相談し、ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力医の往診利用者だけでなく、入居前からのかかりつけ医へも、生活の様子、体調の変化について報告している。	家族の意向に添ったかかりつけ医であり、医師、家族、ホームの職員との情報の共有がされており、薬などの変更があった場合は、業務日誌や連絡ノートに付箋を付け、見落としがないようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、身体の構造や観察のポイントをわかりやすく介護職へ助言し、介護職は変化があればすぐに報告している。契約している訪問看護ステーションの看護師は、開所時からの関りで、管理者以外の職員でも相談しやすい。看護師と主治医との連携もとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、ご本人の生活の様子等、情報を病院へ伝えている。骨折、手術後、ご本人・ご家族が希望していただいたため、施設で行える生活リハビリを説明し、早期の退院につながった。退院前に、病院にてリハビリ担当者からアドバイスをいただいた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「みどりの指針」を説明している。主治医、訪問看護師も「みどりの指針」について理解を下さっている。主治医、看護師、介護士、家族がチームとなり、終末期ケアに取り組んでいる。	終末期に向け家族の意思確認がされており、家族からも満足のいく「みどり」であったと評価されています。看取った後の振り返りにより、スタッフのスキルが向上し、ケアの質の向上へと繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月行っている勉強会で「緊急時の対応」をテーマにあげ、看護師の指導・助言のもと実技を取り入れ、新入職員を主にしながらも、実際には慌てるのが予測されるため、経験者も繰り返し学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備し、抜き打ちでの通報訓練や、昼間・夜間を想定しての避難訓練を行っている。	室内の環境設備では、避難時に障害となるものがなく、整理されています。全職員が順番に避難訓練に参加出来るよう計画し、終了後は反省をし、次回に向けての改善点を考えています。	施設での避難訓練は取り組んでいますので、今後は運営推進会議のメンバーを中心に、地域と一緒に、災害に対する取り組みをし連携が図れることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある堅苦しくない言葉の中にも、常に人生の先輩であることを念頭においている。勉強会や会議のほかにも、お互いに職員同士で気になる言葉や口調について、気付き合えるようにしている。	施設内研修での勉強会や、日常の中で相応しくない言動や態度があれば、管理者の注意でなく、お互いに注意し合える環境となっています。。個人情報の公開については、事前に説明し同意を得て施設内に写真等掲示しています。	プライバシーの侵害となる言動について、勉強会等で全職員に周知しており、人格を尊重した対応の重要性を学び意識を高めています。今後も継続されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の行動の目的を理解できるように、ゆっくり話を聴けるように心がけている。職員の都合にならないよう、何事にも入居者の意向はどうかを考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが整うよう配慮しているが、体調、表情を観察し、個々のペースで過ごせるようにしている。一応の入浴予定日は設定しているが、必ずご本人の意向を伺い、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れていないか、肌着が出ていないかなど「気付く力」をつけている。気付いたら整えている。鏡の前で、髭剃りや整髪を行っていただき、ご本人のおしゃれをするという、気持ちを引き出せるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも手作りである。野菜の皮むきや下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなど入居者と職員が共同で行っている。個々の嗜好や、摂取量を把握し、入居者と職員と同じテーブルを囲み、季節の物を取り入れた献立を楽しんでいる。	旬の食材を取り入れ季節感が味わえるメニューを職員が考え、ユニット毎で手作りをしています。食事の前には食欲をそそる匂いが漂っています。利用者の能力に合わせ出来る範囲の手伝いを一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の毎食の食事・水分摂取量を記録している。摂取量が少ない方には、好みのものを食べやすい形態で、ご家族と協力して準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個々の「どこまで自力で行えるか」を、職員全員が把握し、できない所を介助している。また、口腔内の状態に合わせて歯ブラシや口腔ケアスポンジを使用している。義歯は、毎晩、洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄し気持ちよく過ごせるために、排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンに合わせたトイレ誘導・介助を行っている。汚染した場合は、原因はどこにあるのかを考えて、それぞれ工夫や、改善に取り組んでいる。	日中、重度の方以外はトイレでの排泄を行っています。誘導が難しい方や失禁される方については、失敗・成功の情報を共有し、自立に向けた支援に努めています。排便困難な方には腹部マッサージを行うなど、自然排便を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会で排泄について学ぶ機会をもち、排便確認の重要性を認識できている。また、腹部マッサージ、運動、水分補給を行い、献立には海草や野菜を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の予定はたてているが、その日のご本人の気分や体調に合わせて対応している。汚染時はシャワー浴を行い、清潔に過ごせるようにしている。入浴剤や、個々の好みのシャンプー等を使用している。	通常はユニットバスでの個浴ですが、利用者の方から仲の良い人と一緒に入りたいと要望があれば対応したり、「柚子湯」にしたりと楽しんで頂けるように取り組んでいます。入浴介助中は、湯船に浸かっている利用者と一緒に会話をしている時間をとっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動し、夜、ぐっすり眠れるよう配慮している。昼寝の時間が長くなりすぎず、かつ、午後からもすっきり目覚められるように、声をかけている。寝具、パジャマは常に清潔で気持ちよく使用できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のセット、管理は全職員で行っている。薬の効能、効果、副作用について確認し、内服薬の変更時には必ず申し送りし周知し、変更後に観察すべき点を理解し、記録している。下剤は排便状況により、コントロールしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、個々の身体状況を把握しその方に応じた家事を、職員と一緒にやっている。以前、知的障害者施設で勤務していたという入居者は、ご家族の希望もあり、「住み込みでリハビリを兼ねて働く」という設定で、利用していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望時に、公園やコンビニエンスストアへ行ったりしている。ご家族との外出は自由である。ご家族に協力を得ながら、バス旅行へ行った。	外出される方を制止することなく、その場で一緒に本人の意向に添った行動を支援し、重度の方は車椅子で外出支援をしています。季節ごとのドライブでは、地域の人々や家族の協力を得て実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は、少額ではあるが管理していただき、自動販売機やコンビニエンスストアでの買い物を楽しんでいる。自己管理が難しい方は、事務所で保管し、買い物時に現金をご本人にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コンビニエンスストアへ、切手を買に行き、友人へ手紙を送るなどの支援を行っている。電話は、ご家族の状況を把握し、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを利用し、太陽光の調節をし、年中行事、季節を感じられる装飾を行っている。汚物等の臭いには、職員が敏感に気付く力をつけ、清掃、換気を行っている。乾湿計を利用し、エアコンの調整を行っている。	居室内には、ポータブルトイレを置かず、換気を徹底することで、臭いのない居心地のよい空間を作っています。調理の音や匂いが漂う中で、「ほっと」出来る家庭的な居場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや玄関前のベンチを活用できるようにし、集団・2～3人、1人、それぞれで過ごせる場所を設けている。各ユニット間の行き来も自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの向きも、ご本人の希望を伺っている。火気以外の物であれば、持ち込み物は自由である。ご家族には、「馴染みのもの」の効果をご説明し、できるだけ、新しく購入しなくても使い慣れた物を持ってきていただけるようにお願いしている。	職員主導で、不必要に布団や棚を整理するのではなく、本人の思いや習慣を重視する支援をしています。お茶を飲みたい方には、ポットを設置し部屋でゆっくり自分なりのお茶の時間が楽しめるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は、死角が少ないつくりになっている。トイレ、浴室、ホールには手すりがあり、自立支援しやすい工夫がされている。		